

4月17日(土) 日・韓・アジア交流・友だち作ろう ビビンの会に出席して

公立中学校教師 高橋篤子



ずっと来たいと思っていたビビンの会。既に大学生世代の友人が多く参加していて、彼らと会うたびに「姉さんもビビンの会に遊びに来てよ！絶対に面白いよ！！」と誘われていた。私はそもそも子供が好きだし、中学頃からボランティアに興味があったこともあって、楽しく韓国の人と話が出来てボランティアにもなるなら、そりゃー石何鳥だい、と前々からとても興味を持っていた。が、公立中学校の教員である私は、どうしても部活や行事が重なってしまうことが多く、今まで参加できずにいつも残念に思っていた。

今回ようやく参加することができた訳なのだが、まず、私が部屋に入って目にしたものは、ホワイトボードに貼られた色紙で作られた輪飾りと、セロテープが取れてしまったのかボードから落ちかけたハートの風船だった。とても素朴な飾り。でも、これだけのものを準備するのに、一体スタッフの皆さんはどれだけの時間を費やされたのだろうか。きっと、自分の時間を惜しげもなく使って、とてもあたたかい気持ちで作ってくださったんだろうなと初参加ながらありがたい気持ちになった。実際に会が始まり、アイスブレイキングあり、歓談ありととても楽しい時間が過ぎた。

後半はグループを変えて他己紹介をする。そのインタビューシートも手作りだ。ここでも私はまたほっこりしてしまう。そして、私が一番楽しみにしていたディスカッションが始まった。各グループで色々なテーマがあり、同じ国民同士でも考え方が違ったり、韓国人が知らない韓国情報を日本人が提供したり。でも、どのグループにも、誰が話しても一生懸命聞こう、違う意見も尊重しようという態度が見られた。これが私の普段の授業であり、今回の参加者が私の生徒であったら、私は授業を止めてでも褒めちぎると思う。この場での参加者の態度は「聞く」ではなく「聴く」だったからだ。この「聴く」は耳で聞くだけではなく、そこに目と心を足す漢字である。音で聞いていても、そこに物事をまっすぐに見つめよう＝理解しようとする心が無くては、誰かの言葉はただの音になってしまう。でも、このビビンの会は違った。スタッフとゲストの間での気持ちのキャッチボールがあり、ゲスト同士も気持ちのキャッチボールができた。私は教師という仕事上、他人を動かすためには、どれだけ準備が大変か良く分かっているつもりであるし、あ、ここはすごく工夫しているなど感心するところも多かった。しかし、何よりもそんなことを参加者のほとんどが気づくことなく、心から楽しい時間を過ごすことができていたのが一番大切なことなのではないかなと思う。私もとても楽しかった。

実は昔、韓国人から「韓国の中に今ある悪い文化は全部日本から来た」と面と向かって言われたり、旅行中に日本語で話していたら韓国語で「日本人が～～」とサラリーマンに凄く不愉快そうな顔で言われたことがある。だから一時韓国・韓国人をどこか怖いなと思っていた。だが、韓国人友達が増えた今、個人を好きになることが出来れば、全体のイメージも良くなるなと思っている。きっとビビンの会は、そんなやさしい関係作りのきっかけになれる会だろう。

最後に、スタッフのみなさん、素敵な場をずっと作ってくださっていて、どうもありがとうございます。ぜひ、また参加したいと思っています。

